

粒立ちが良い音色と幅広い表現力 すべてのバランスを追求したピアノ

あらゆるものがデジタル化されている今こそ、「アコースティックピアノのある生活」の色褪せない価値を多くの人に届けたい。子どもから大人まで、ピアノを楽しむための垣根を広げてくれるアップライトピアノ「Bシリーズ」が新たに誕生した。

従来モデル「bシリーズ」を基盤に、ハンマーや響板の設計を見直すことで、コンパクトながら豊かな響きを実現し、譜面立ての改良やソフトランディング機構(※)の採用で、使いやすさと安全性も格段に向上。もちろんサイレントピアノおよびトランスアコースティックピアノも選択できる。

モデルチェンジの話が持ち上がったから、試作段階を経て開発が開始し、製品の発表に至るまで、約10年。Bシリーズの設計担当者・飯田茂樹さんは「前モデルの開発に立ち上げから携わり、発売後にご好評いただきつつも、さらに良くしたい、モデルチェンジしたい、とずっと思っていました。ピアノは、新規開発の方向性を探り、企画が決定する前の試作段階にも数年単位の時間がかか

ります。その間に市場のニーズがどんどん変わって、方向転換したり、止まってしまったりする開発もある。今回はコロナ禍もありました。そのなかで10年走り抜けたことは、本当に感慨深いです」としみじみ語る。

この10年間、「こんなピアノにしたい」と思い続けた理想は変わらなかった。まずピアノの本質である音、そしてタッチは、くっきりと粒立ちが良い音色と幅広い表現力を目指し、音階をはっきり捉えられると同時に演奏性が高く、練習しやすいピアノを意識したと言う。

ハンマーは、世界に誇るコンサートグランドピアノ「CFX」の開発で得たノウハウを取り入れ、フェルトの優れた弾力性を生かしたBシリーズ専用のハンマーを採用することで、芯があり伸びが良く、鮮やかな音色を生み出した。

ピアノの響きの要である響板や支柱の設計も見直した。約20トンもの弦張力がかかるピアノでは、支柱の剛性が響板の形状維持や音響性能の安定性に大きく関わる。そこでBシリーズでは5本支柱を採用し、より安定した構造を実現。さらに「B20」では響板面積を拡大することで、より幅広いダイナミックレンジと豊かな響きを実現した。

「ピアノって難しんです。もちろん安定感は大切ですが、ガチガチに支柱を多くすればするほどいいというわけでもない。バランスが大事ですね。響板の材質や貼りつける接着剤、支柱の本数やフレームの硬さな

ど、いい音のために、さまざまなことを組み合わせて研究しています。一つひとつの機能の改善をゴールにしているわけではなく、アクション、ハンマー、弦、響板などのすべてが組み合わったときの表現の深さを目指しているんです」

使い勝手の良さのために

ベストを突き詰めた譜面立て

さらに飯田さんが熱意を持って語ってくれたのは、自身が設計した譜面立てだ。鍵盤蓋と同じ横幅にし、十分な奥行きを確保することで、複数の楽譜や蛇腹折りの楽譜、厚みのある楽譜も安定して設置でき、発売以来大好評を得ている。飯田さんは「あれ、いいでしょう？ これまで、もっと広くしてほしいという声をずっといただいていたので、じゃあいちばん広くしよう！ と思いました」と語るが、ここまでの道のりは平坦ではなかった。譜面立ての奥行きを確保し、角度も広く取ろうとすると、上前板がピアノ内部のアクションに接触してしまうため、うまくいかない。来る日も来る日も考えた末、思いついたのは上前板に傾斜をつけることだった。

「どうすれば譜面板の使い勝手がいか、角度や奥行き、幅など、あらゆるパターンを試して、議論しました。そもそもピアニストにとって良い譜面板とは何か、めくりやすいとは何かを考え、今回実現できるベストを突き詰めた形があつた譜面立てです。本当にこだわりました」

豊かな響きと使いやすさの特徴



ハンマーを見直して 上質な演奏体験を実現

コンサートグランドピアノ「CFX」の開発で得た知見を反映し、「Bシリーズ」専用のハンマーを新たに開発した。フェルトが本来持つ優れた弾力性を生かすことで、音の伸びが良く、芯があり、各音域の旋律を鮮やかに浮かび上がらせる。

響板のわずかなサイズアップが 音の違いを生む

従来のアップライトピアノ「bシリーズ」のうち「b113」は高さが113cmだったが、その後継モデルにあたる「B20」は116cmと高さを3cmアップした。音の良さは響板の大きさによって変わるため、わずかなサイズアップで音質が向上している。



「B20」の裏面の響板は前シリーズに比べて大きくなっている。

使いやすさを追求した蓋の設計

まずは譜面立ての横幅を見直した。その幅は鍵盤蓋と同じサイズにし、奥行きも十分に確保。上部には滑り止め効果のある人工皮革を使用することで、さまざまな譜面の設置を楽にする。

また安全性に配慮し、鍵盤蓋がゆっくりと閉まる内蔵型ソフトランディング機構を採用。蓋の重みで勢いよく閉まるのを防ぐ。



鍵盤蓋と同じ横幅の譜面立て。蛇腹折りや分厚い楽譜も無理なく設置できる。



鍵盤蓋は手を離してしまってもゆっくりと閉まる仕様になっている。



設計を担当したヤマハ株式会社ピアノ事業部の飯田茂樹さん。